

ICRP 2024

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」事後報告書

生命環境科学系 博士後期課程1年 中村星王 (加藤研究室)

今回「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」を頂き、2024年11月16日～11月23日にかけて、スイスのインターラーケンで開催された ICRP 2024 (20th International Conference on Retinal Proteins) に参加した。ICRP は、レチナルタンパク質を包括的に扱う唯一の国際会議として1984年に設立され、それ以来2年ごとに世界各地で開催されている。その主な目的は、レチナルタンパク質の構造、分光学、遺伝学、生化学、生理学的研究、そして光を用いて神経細胞の活動や動物の行動を制御するオプトジェネティクスなど、網膜タンパク質に関する最新の研究を共有する場を提供することである。

報告者は” Understanding light-sensitive mechanism of non-visual opsins”という題目でポスター発表を行った。非視覚型オプシン (non-visual opsin) は視覚機能に関わらないオプシン群であり、眼や脳、脂肪組織、皮膚などの様々な組織に発現し、概日リズムや体温調節、メラニン形成など多様な生理機能と関わる。非視覚性オプシンの担う多様な生命現象は、発現部位の違いだけでなく、吸収波長や G タンパク質選択性など、それぞれのオプシン分子特性によっても引き起こされる。そのため非視覚型オプシンの分子機構は注目を集めている一方で、その理解は非常に限られている。報告者は、分子機構の解明を目指し、非視覚性オプシンの構造および機能解析について論じ、多くの研究者と議論を交わすことができた。

また、自身の発表以外では多くのパネルセッションを聴講し、非視覚型オプシンにとどまらず、レチナルタンパク質について様々な研究報告を聞き、多くの知見を得た。さらにこの学会では、京都大学の山下高廣先生、名古屋工業大学の片山耕大氏をはじめとした日本人研究者の他、さらに Igor Schapiro 氏、Christine Merlin 氏など海外の研究者とも交流することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。加えて、本学会をきっかけに共同研究を行うことになり、ICRP が今後の自身の研究を発展させる大きなきっかけになったと確信している。二年後の ICRP での口頭発表を目指し、日々の研究に邁進していきたい。

改めて今回の学会参加にあたり、「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」からの助成を頂き、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



↑ 会場付近の雪景色



↑ 参加した研究室の教授と学生の集合写真